

SHEET6 独占・自然独占・寡占

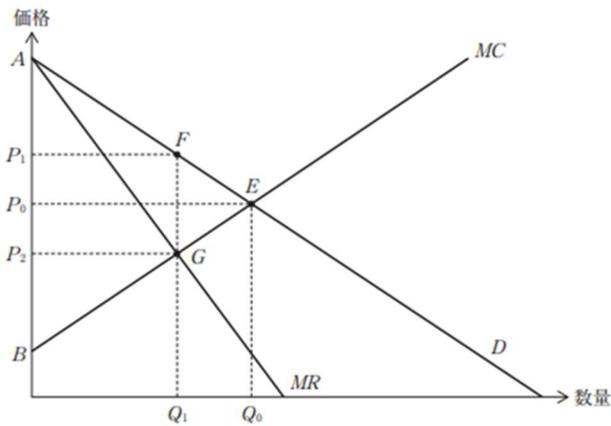
独占

レベル1

R3 第19問

下図によって独占企業の利潤最大化を考える。 D は独占企業の市場需要曲線、 MR は独占企業の限界収入曲線、 MC は独占企業の限界費用曲線である。

この図に関する記述として、最も不適切なものを下記の解答群から選べ。

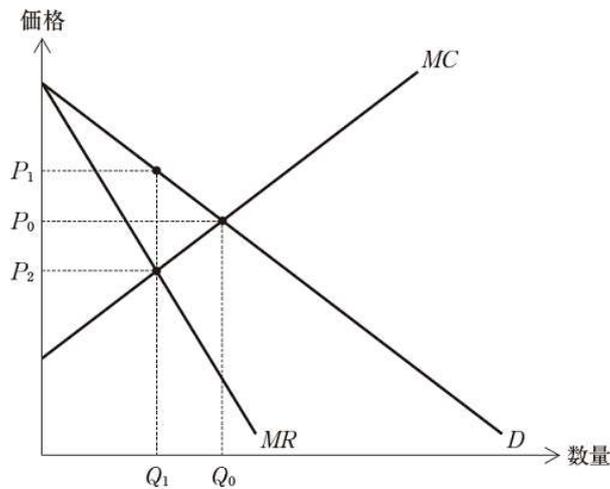


〔解答群〕

- ア 社会的に望ましい生産量は Q_0 で実現し、そのときの総余剰は三角形 ABE である。
- イ 生産量が Q_1 のとき、この独占企業の平均収入は P_1 である。
- ウ 独占企業が利潤を最大化させるときの消費者余剰は台形 AP_2GF である。
- エ 独占企業の利潤を最大化する生産量は Q_1 である。

H30 第 13 問

下図は、独占企業が生産する財の需要曲線 D 、限界収入曲線 MR 、限界費用曲線 MC を示している。この図に関する記述として、最も適切なものの組み合わせを下記の解答群から選べ。



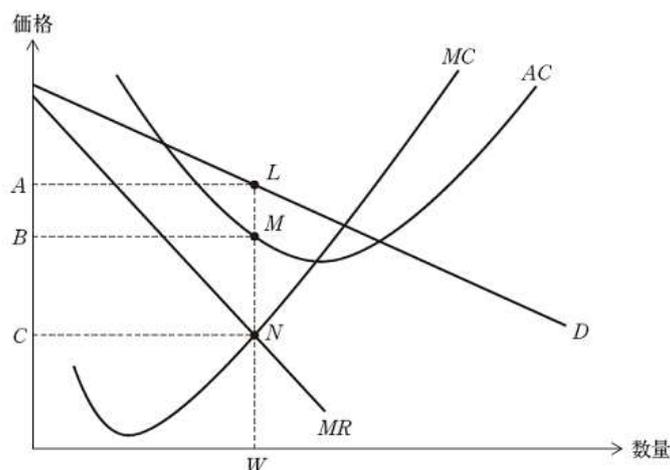
- a 独占企業が利潤を最大にするとき、完全競争を想定した場合と比較して、消費者余剰は減少する。
- b 独占企業が利潤を最大にするとき、完全競争を想定した場合と比較して、総余剰は増加する。
- c 独占企業の利潤が最大になる生産量は Q_1 であり、そのときの価格は P_1 である。
- d 独占企業の利潤が最大になる生産量は Q_1 であり、そのときの価格は P_2 である。

〔解答群〕

- ア a と c イ a と d ウ b と c エ b と d

H26 第 19 問

下図は、独占市場におけるある企業の短期の状況を描いたものである。AC は平均費用曲線、MC は限界費用曲線、D は需要曲線、MR は限界収入曲線であり、独占企業が選択する最適な生産量は、MC と MR の交点で定まる W となる。この図に関する説明として最も適切なものを下記の解答群から選べ。



〔解答群〕

- ア この独占企業が得る利潤は、 $\square ALMB$ で示される。
- イ この独占企業が得る利潤は、 $\square ALNC$ で示される。
- ウ 生産量 W のとき、限界収入曲線が平均費用を下回るため、 $\square BMNC$ の損失が発生する。
- エ 生産量 W のとき、需要曲線が平均費用を上回るため、 $\square ALMB$ の損失が発生する。

レベル 2

R2 第 20 問

居酒屋は独占的競争市場の一例として考えられている。このような独占的競争市場における居酒屋に関する記述として、最も適切なものの組み合わせを下記の解答群から選べ。

- a この居酒屋は、周囲の居酒屋が価格を下げた場合でも、製品差別化のおかげで需要が減少することはない。
- b この居酒屋は、正の利潤を見込んで新規の居酒屋が多数参入してくると、製品が差別化されていたとしても、長期的に利潤はゼロになる。
- c この居酒屋は、他の居酒屋とは差別化したメニューを出しているので、価格支配力を持つ。
- d この居酒屋は、プライス・テイカーである。

[解答群]

- ア a と c
- イ a と d
- ウ b と c
- エ b と d

H27 第 19 問

企業は、供給する財の価格を決定するとき、消費者の価格弾力性を考慮に入れることがある。

いま、ある企業が 2 つの市場 A と市場 B において同一の財を独占的に供給している。当該企業は、2 つの市場において同一かつ一定の限界費用でこの財を生産しているが、2 つの市場で異なる価格を設定することができる。ただし、各地域内では、消費者ごとに価格を差別することはできないものとする。

この財への需要は、市場 A と市場 B では異なり、市場 A での需要の価格弾力性は、市場 B での需要の価格弾力性よりも相対的に低い(相対的に非弾力的である)。

このときの記述として、最も適切なものの組み合わせを下記の解答群から選べ。

- a 合理的な独占企業は、限界収入と限界費用が一致する生産量を選択する。
- b 合理的な独占企業は、需要曲線が示す価格と限界費用が一致する生産量を選択する。
- c 需要の価格弾力性が高い市場 B の価格は、市場 A の価格よりも高くなる。
- d 需要の価格弾力性が低い市場 A の価格は、市場 B の価格よりも高くなる。

[解答群]

- ア a と c イ a と d ウ b と c エ b と d

自然独占

レベル 1

H28 第 22 問

多くの地方自治体が、地域活性化の手段として、企業誘致に取り組んでいる。企業の市場への参入や立地は、企業の費用構造や他の企業との関係性と密接な関連をもつ。企業行動に関する記述として、最も適切なものの組み合わせを下記の解答群から選べ。

- a 収穫逓減産業では、限界生産力が低下するので、範囲の経済のメリットを享受しうる。
- b 収穫逓増産業では、生産規模の拡大を通じて規模の経済のメリットを享受しうる。
- c 企業が集中して立地することにより集積の経済のメリットを享受しうる。
- d 費用逓減産業は、長期平均費用が低くなるので、中小企業にとって参入が容易である。

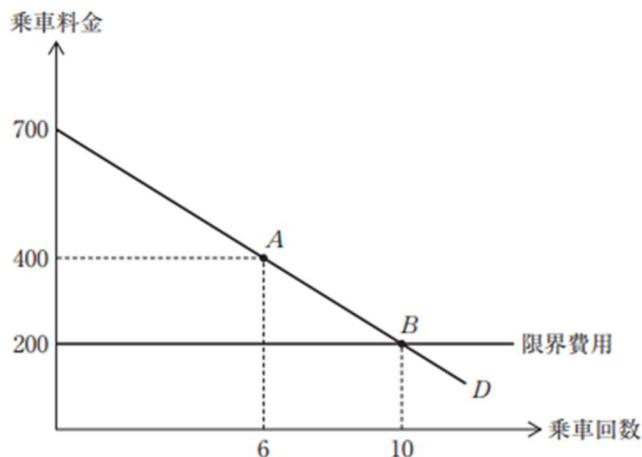
[解答群]

- ア aとc イ aとd ウ bとc エ bとd

レベル 2

R3 第 20 問

ある遊園地では、入場料とアトラクション乗車料金の 2 部料金制をとっている。太郎さんがこの遊園地のアトラクションに乗る回数は 1 回当たりの料金に依存するので、下図のような需要曲線 D が描けるとする。また、この遊園地がアトラクション乗車 1 回で負担する限界費用は 200 円であるとする。下図に関する記述の正誤の組み合わせとして、最も適切なものを下記の解答群から選べ。



- a 点 A において太郎さんが支払う費用は 1,200 円である。
- b 点 A よりも点 B の方が、太郎さんの消費者余剰は大きい。
- c 入場料 700 円を支払った後に、点 A において太郎さんはこのアトラクションに 6 回乗る。

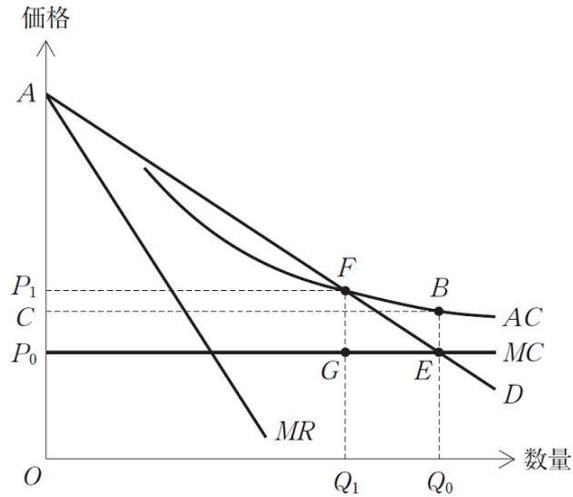
[解答群]

- ア a : 正 b : 正 c : 正
 イ a : 正 b : 正 c : 誤
 ウ a : 誤 b : 正 c : 正
 エ a : 誤 b : 正 c : 誤
 オ b : 誤 b : 誤 c : 誤

R2 第 21 問

2部料金制の考え方によれば、電力やガスなどの産業では、政府が補助金の交付をしなくても最適な生産水準が達成される。下図には、需要曲線D、平均費用曲線AC、限界費用曲線MC、限界収入曲線MR が描かれている。

この図に関する記述として、最も適切なものを下記の解答群から選べ。

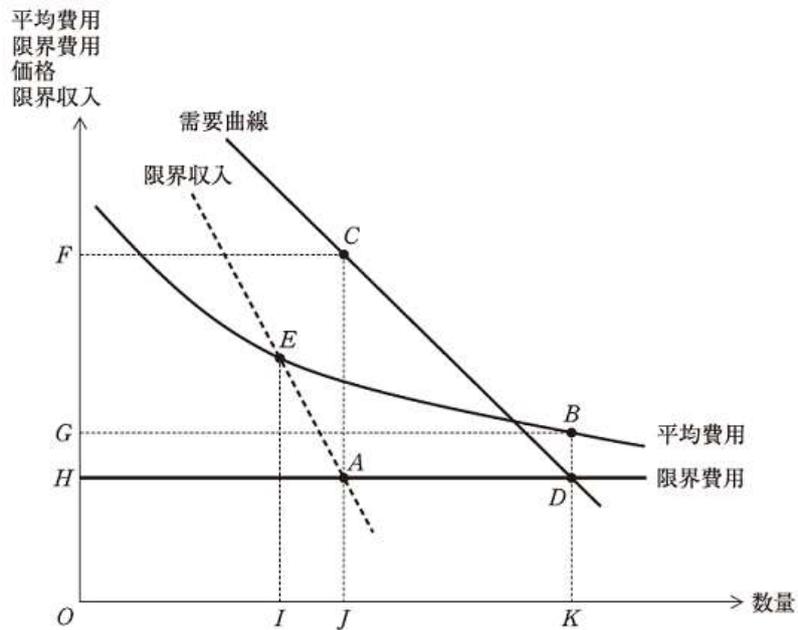


〔解答群〕

- ア 最適な生産水準は Q_0 となり、消費者が均等に負担する基本料金は、四角形 OP_0EQ_0 である。
- イ 最適な生産水準は Q_0 となり、消費者が均等に負担する基本料金は、四角形 P_0EBC である。
- ウ 最適な生産水準は Q_1 となり、消費者が均等に負担する基本料金は、四角形 OP_0GQ_1 である。
- エ 最適な生産水準は Q_1 となり、消費者が均等に負担する基本料金は、四角形 P_1FGP_0 である。

H25 第 17 問

下図は、平均費用が逓減局面にある財市場で企業 Z による自然独占が発生している状況を示している。この図に関する記述として最も適切なものを下記の解答群から選べ。



[解答群]

- ア 企業 Z が独占企業として振る舞う場合、四角形 ACFH が独占的利潤の大きさを意味する。
- イ 企業 Z に対して政府が限界費用価格形成原理を課す場合、三角形 CAD に相当する死重損失が発生する。
- ウ 企業 Z に対して政府が限界費用価格形成原理を課す場合、四角形 DBGH に相当する損失が発生する。
- エ 企業 Z に対して政府が平均費用価格形成原理を課す場合、当該財の生産量は I となる。

寡占

レベル 1

H27 第 23 問

下表は、公正取引委員会「生産・出荷集中度調査」より、平成 23 年度と平成 24 年度における、液晶パネル製造業とインターネット広告代理業における累積生産集中度の値を抜き出したものである。下表の解釈として、最も適切なものを下記の解答群から選べ。

		CR 3	CR 5	CR 10
液晶パネル製造業	平成 23 年度	94.6	97.6	100.0
	平成 24 年度	97.0	99.4	100.0
インターネット 広告代理業	平成 23 年度	43.8	62.4	81.5
	平成 24 年度	43.9	63.7	82.3

出所：「生産・出荷集中度調査」(公正取引委員会)

〔解答群〕

- ア 平成 23 年度のインターネット広告代理業では、上位 10 社の企業で市場を占拠している。
- イ 平成 24 年度のインターネット広告代理業では、平成 23 年度と比較して、上位 5 社の企業によって占拠される割合が小さくなった。
- ウ 平成 24 年度の液晶パネル製造業では、10 社を超える企業の競争状態にある。
- エ 平成 24 年度の液晶パネル製造業では、平成 23 年度と比較して、上位 3 社の企業によって占拠される割合が大きくなった。

H24 第 20 問

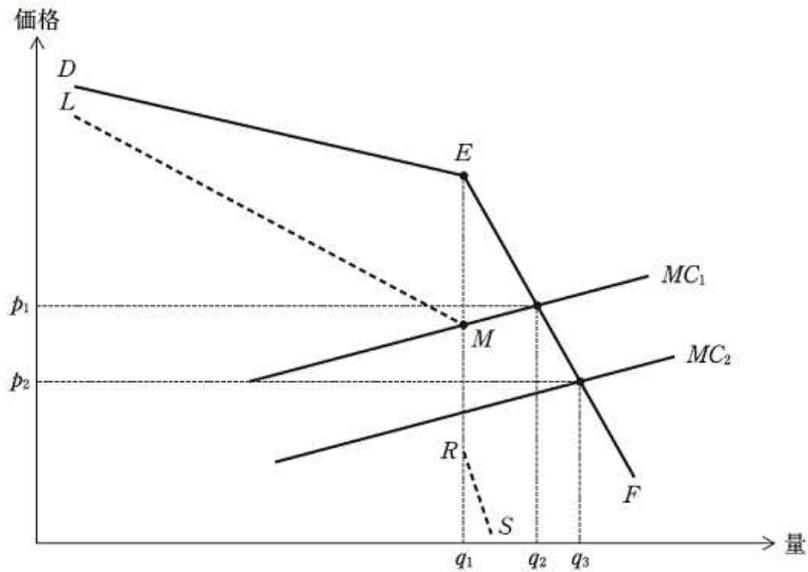
不完全競争を理解するための経済理論モデルに関する説明として、最も適切なものはどれか。

- ア 寡占市場における屈折需要曲線の説明では、限界収入曲線が不連続になる点に特徴の 1 つがある。
- イ 規模の経済が働き、平均費用が低下しているような自然独占の市場では、限界費用は平均費用を上回っている。
- ウ 複占市場におけるクールノー・モデルの説明では、ライバル関係にある企業が価格競争(価格引き下げ競争)を行うと仮定する点に特徴の 1 つがある。
- エ 複占市場におけるベルトラン・モデルの説明では、ライバル関係にある企業が数量競争(生産量を増やす競争)を行うと仮定する点に特徴の 1 つがある。

レベル2

H28 第23問

下図では、利潤最大化を目指す合理的な企業が直面する寡占市場を念頭において、点Eで屈曲する「屈折需要曲線」DEFが描かれている。この需要曲線のDE部分に対応する限界収入曲線が線分LM、EF部分に対応する限界収入曲線が線分RSである。いま、当該市場で q_1 の生産量を選択していた企業の限界費用曲線 MC_1 が MC_2 へシフトしたものとする。下図に関する記述として、最も適切なものを下記の解答群から選べ。



[解答群]

- ア 限界費用曲線が MC_2 へシフトしたことにより生産量を q_1 から q_2 へ増加させる。
- イ 限界費用曲線が MC_2 へシフトしたことにより生産量を q_1 から q_3 へ増加させる。
- ウ 限界費用曲線が MC_2 へシフトしても、価格は変わらない。
- エ 限界費用曲線が MC_2 へシフトすると、価格を p_1 から p_2 へ引き下げる。

解答

SHEET6 独占・自然独占・寡占			
独占			
レベル1	R3	19	ウ
	H30	13	ア
	H26	19	ア
レベル2	R2	20	ウ
	H27	19	イ
自然独占			
レベル1	H28	22	ウ
レベル2	R3	20	ウ
	R2	21	イ
	H25	17	ウ
寡占			
レベル1	H27	23	エ
	H24	20	ア
レベル2	H28	23	ウ